

インタビュー1



シーニックバイウェイ北海道

道内各地の活動を、道路を通じて連携し 地域と北海道を元気にする

● シーニックバイウェイ北海道とは ●

地域に暮らす人が主体となり、企業や行政と手をつなぎ、個性で活力ある地域づくり、景観づくり、魅力ある観光空間づくりを目指す取り組み。2003年にモデルルートが選定され、2013年現在11の指定ルートと1つの候補ルートがある。

シーニックバイウェイ北海道 ルート指定の状況



■ ルート名・テーマ・活動団体数 H24.12月時点

ルート名	ルートのテーマ	活動団体数
① 支笏洞爺ニセコルート	美しい湖と秀峰、火山に出逢えるルート	23
② 大雪・富良野ルート	四季を彩る花人街道	20
③ 東オホーツクシーニックバイウェイ	ロマンティックヒーリング、風を感じて走る道	25
④ 宗谷シーニックバイウェイ	あたたかい最北のみち	22
⑤ 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	神秘的で豊れた自然のあり様を五感で感じるダイナミックルート	13
⑥ 函館・大沼・噴火湾ルート	人と人をつなぐ道	29
⑦ 萌える天北オロロンルート	暮らしぶりの映し、北の光が続く道。	38
⑧ 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート	スケールは日本一 広さ・環境・ツーリズム・農	45
⑨ 十勝シーニックバイウェイ トカプ子雄大空間	十勝型産業の創出と人口増加	40
⑩ 十勝シーニックバイウェイ 南十勝夢街道	夢を育む海と大地と清流のみち	36
⑪ 札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山渓ルート	「住んでよし、訪れてよし」の都市空間	40
⑫ どうなん・道分シーニックバイウェイ(候補ルート)	「ひと」と「みち」が「つなぐ北の大地の地域力再生へのチャレンジ」	28



国土交通省
北海道開発局建設部
道路計画課
開発専門官
畑山 朗 氏



国土交通省
北海道開発局建設部
道路計画課
企画第2係長
伊藤 学 氏



国土交通省
北海道開発局建設部
道路計画課
企画第2係 開発専門職
大西 功基 氏

「風景が良い」+「寄り道・脇道」の意味を持つシーニックバイウェイ。全道12ルートで約350の団体が取り組む地域活動は、全国128箇所で開催されている「日本風景街道」の先駆けとして国内各地から視察に訪れるほど。試行から10年目を迎えるシーニックバイウェイ北海道の歴史と現在の姿を事務局に伺った。

団体による大量供給型の観光から 個人による高品質・高価値の観光体験へ

シーニックバイウェイ北海道のきっかけは、1992年から始まった道の駅スタンプラリーだった。道の駅スタンプラリーは開始から年々人気を集め、2004年度には5万人が登録し、当時全道に76箇所あった道の駅の全てを訪れた“完

走者”が9,000人以上となった。

そのため、スタンプラリーの人気の要因を探ろうと、開発局では2001年から道内のドライブ観光をテーマとした調査を行った。結果は観光の目的として各地に点在するグルメや景観を挙げる例が多く、北海道の地域資源の豊かさを再認識することになった。「当時の調査では、個人型観光のニーズが高いことがわかりました。道内在住の方が家族や友人とドライブするという動きに加えて、旅行代理店によるレンタカーを使った個人型プランで道外のカップルや家族連れが道内を観光するパターンも増えていました。そんなニーズに応えられるだけの個性的で美しいツーリング環境を実現するために、地域住民と行政が協力しあい、広域的に地域景観の保全と改善を目指すしくみが必要になったのです」(畑山氏)

そこで注目したのが当時アメリカで住民やNPOが中心となって行っていた道路を中心に据えた景観や環境保全の動

きだった。1980年代、アメリカは財政赤字と貿易赤字が増大し、道路の維持管理さえままならなかった。そんな荒廃するアメリカからの脱却をはかるために1989年に制定されたのがシーニックバイウェイだ。景観を保全し地域の魅力をアップすることで、観光客を増加させ地域に経済効果をもたらそうという制度である。折しもバブル崩壊後の失われた10年という停滞期にあった北海道でも、その閉塞感を打ち破るべく依存型から自立型の経済への転換に向けて模索が始まっており、個人型のドライブ観光の振興は、その原動力になると考えられた。

そんな背景のなか2003年に旭川～占冠間と千歳～ニセコ間の2つのモデルルートが指定され、2年間の試行で得られた知見を踏まえた上で2005年3月に「シーニックバイウェイ北海道」が正式にスタートした。

景観・観光・地域の3つの柱で北海道に新しい価値を創出

シーニックバイウェイ北海道は実際にどんな活動をしているのだろうか。

「自分の家の前に花を植えたり、道路の清掃を自主的に行ったり、景色の良い場所の写真をホームページで紹介したりと、以前から地域の魅力アップにつながる取り組みを個々で行っている方がたくさんいらっしゃいました。こうした方々が道路を通じて連携すれば、より活動的に発展していくことが可能になります。これがシーニックバイウェイの基本的な考えだと思います」(畑山氏)

具体的な活動は3つのコンセプトの元で行われている。

1) 美しい景観づくり

活動団体や地域間の連携などにより、沿道景観をより魅力的にする活動で、具体的には宗谷シーニックバイウェイでの、観光客へのおもてなしとして一役を担う稚内空港線(稚内空港前)の植樹帯の除草、花植えを行う「稚内空港線植樹帯維持活動」や留萌周辺で行われた景観にそぐわない標識や看板を道路管理者と地域の人々が共同で診断・撤去する例などがある。

2) 魅力ある観光空間づくり

旅行者の満足度向上を目指し、観光メニューの創出、イベントの実施、情報発信などの活動で、具体的には、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイで実施している「釧路湿原・阿寒・摩周バリフリースタイル」推進体制づくりの例や、トカプチ雄大空間で実施している魅力をより広く周知することを目的としたトカプチ雄大空間内の施設をお得にめぐ



宗谷シーニックバイウェイ
「稚内空港線植樹帯維持活動」

る「トカプチめぐり券」の販売などの例がある。

3) 活力ある地域づくり

地域資源を生かしたまちづくりの勉強会など、地域の誇りを育む活動で、具体的には、十勝平野・山麓ルートで実施している、ルート内の隠れた資源、一瞬の美しい光景等新しい魅力を発見し、ルートのPRや情報発信に活用する「フォトコンテスト」の例や、札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルートで実施している、ルートの魅力をPRするイベント「札幌南オースタムフェスティバル」を開催する例などがある。

「継続的な活動の結果、ルートは徐々に増え、10年目を迎えた現在では道内12ルートが展開されています。」(畑山氏)



トカプチ雄大空間
「トカプチめぐり券」



釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ
「釧路湿原・阿寒・摩周バリフリースタイル」推進体制づくり」



十勝平野・山麓ルート
「フォトコンテスト」



札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート
「札幌南オースタムフェスティバル」

地域の資源を活かしてルートごとに個性豊かな活動を展開



南十勝夢街道「学校シーニックバイウェイ」

各ルートの模範となる取り組みは年度ごとに「ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト」として表彰される。2011年度の最優秀賞は南十勝夢街道の「学校シーニックバイウェイ」が選ばれた。「地域の活動に参加している人が地元小学校の授業でシーニックバイウェイの理念や活動内容を地元の小学生に教えるという内容です。地元の良さを伝え、こうすれば観光客が来るので

はといった話をしたあとで、小学生が自分たちの目線でおすすめ観光マップを作りました。そしてこのマップを元にモニターツアーが実施され、札幌の親子約30名が参加しました。人材育成につながる取り組みとして高く評価されました」(伊藤氏)



萌える天北オロロンルート
「地域情報発信プロジェクト」

優秀賞には萌える天北オロロンルート「地域情報発信プロジェクト」が選ばれた。

「地元の人と食と観光」をテーマに

2006年にスタートしたフリーペーパー「るもい食の時刻表」(全15号)のコンセプトが、その後発行された「るもいFan通信」(全45号)やインターネット上の「ウェブるもいFan」に受け継がれ、最新の情報を加味しながら活用されている点が評価された。「北海道ならではの取り組みとして、冬期の観光に焦点を当てた活動を行う地域もあります。千歳からニセコにかけての国道276号線沿線を中心に広域にアイスキャンドルを設置する『シーニックナイト』、大雪・富良野ルートにある道の駅・びえい「丘のくら」などを会場に雪を使ったアート作品を展示する『ウインターサーカス』、函館の街なかに観光客などが作ったキャンドルを飾る体験型観光と景観づくりを融合した『シーニックdeナイト』などが挙げられます」(伊藤氏)

イベント型の活動だけでなく、日々地道に活動を続ける例もある斜里町のウトロ地区では冬期手作りの「雪山展望台」が登場する。除雪で堆積した雪が邪魔になり道路から流水が見えなくなった場所を住民が手作業で突き崩し、展望が開けるように整備しているという。

「アメリカのシーニックバイウェイの制度をベースにしていますが、シーニックバイウェイ北海道は地域の活動を含めた幅広い活動を対象としています。ルートごとに提出する運営活動計画書が3つのコンセプトに沿ってさえいれば、自由な発想やアイデアで活動していただいて構いません。そのため、本当に幅広い取り組みがなされていて、その多様性がまた刺激となって新しいアイデアを生んでいるようです」(畑山氏)

北海道から始まったこの取組は、道路という限られた空間だけではなく、道路の後背地となる農地なども全て含んだ面的な展開となっている。

「例えば、2010年度のベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクトの最優秀賞に選ばれたヒラメ底建網オーナーin遠別があります。あらかじめ海底に設置した定置網をイベント当日に引き上げヒラメの漁獲量を競うもので、各網ごとにオーナーを募集して水揚げされたヒラメが分配されます。活動の中心は漁業協同組合ですが、シーニックバイウェイ北海道の活動団体が、観光協会や役場と漁組の間の橋渡し役と情報発信を行っています。」(伊藤氏)



大雪・富良野ルート
「ウインターサーカス2012
[れんがとじゃがいも]
相原正美」



支笏洞爺ニセコルート
「シーニックナイト2012」

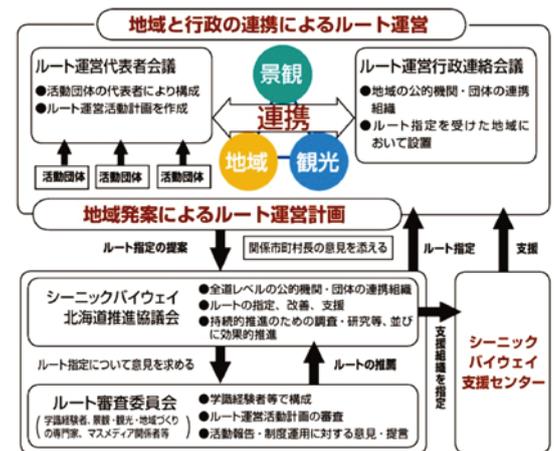
主役はあくまで地域の人 黒子に徹する推進協議会

こうした取り組みは地域の活動団体を中心に運営されている。ひとつのルートの中に複数の活動団体があり、各ルートをとりまとめる形でルート運営代表者がある。さらに全てのルートの調整と活動のPRなどを行っているのが推進協議会である。

「当初は行政主導の下でプロジェクトが進むのかと勘違いされる方もいました。でも主役は地域で実際に活動を行う方々で、我々はあくまでみなさんのお手伝い役です」(畑山氏)

例えば道路脇の駐車帯でカフェを運営する場合、道路占有許可の申請や警察との折衝などクリアしなければならない事柄が多く、地域の人为实现するにはハードルが高かった。しかし、行政が間に入って相談役と調整役をこなせば、地域の有益なアイデアが短期間で実現しやすくなる。また、景観を活かすため、道路の標識や看板を集約するといった道路行政の裁量内でバックアップすることも可能になる。

■シーニックバイウェイ北海道の概要



「お金がない分、知恵と協力でやりくりするしかありません。現地の活動に顔を出して膝を交えて話す。土日も関係なく現地に行く。それが我々の仕事です。各地での調整役は大変なポジションですが、その結果、地域の皆さんが喜んでもらえれば、私達も嬉しいですし、また、これこそが行政の本来の姿なのかとも思います。地域が活性化されれば自ずと道路は利用されます。道路も行政も地域活性化の黒子役でいいのです」(伊藤氏)

各ルートを担当する職員の取り組みやこのようなコミュニケーションは、意外な効果をもたらしているという。

「あくまで余談ですが、これまでは開発局の職員が道路事業について説明に行った場合、地域の方々とお互い正直に話すことは難しいこともあったのですが、シーニックバイウェイの活動が浸透している地域では、比較的スムーズに話し合いが行えることが多いそうです。

また、昨年(平成24年)5月に発生しました土砂災害による中山峠の通行止めでは、活動に参加している団体の皆さんが自主的に道路に関する情報を発信していただくなどのご協力を頂きました。

このようにシーニックバイウェイ活動を通じ、開発局に対する住民の皆さんのご理解が深まり、その他の道路事業にも良い影響が波及していることは本当に嬉しく思います。」(畑山氏)

畑山氏は推進協議会の方向性が時代とともに変わりつつあると考えている。

「これまで、推進協議会としてはルートを増やすことに力を入れてきましたが、これからは横のつながりも今まで以上に重要になっていくでしょう」

横のつながりとはつまりルート内の異なる団体同士の連携や、ルート間での連携、そしてシーニックバイウェイ北海道と民間企業の連携が重要になるということだ。

例年12月に開催される「シーニックバイウェイ北海道全道フォーラム」は年に一度全ルートが一同に会する交流イベントである。会場では他地域の取り組みを自らの地域の参考にしようとする積極的に交流をはかる参加者の姿が多いという。また十勝の3団体が共同で開催した地域のフォーラムに東オホーツクの代表が招かれ、講演とパネルディスカッションに参加するなど、交流によってアイデアを共有する動きが活発になっている。

民間企業との連携も既にいくつかの事例がある。観光関連事業では、トヨタレンタカーがシーニックと連携したレンタルプランを提供している。特にハイブリッドカーを活用したプランは、環境に優しく、自然への配慮といった点がシーニックの理念とも一致した取り組みにもなっている。

また、Follow Me Japan Pte.Ltdでは外国人を対象としたシーニックルートを巡る北海道ドライブツアーが企画されており、将来においては北海道ならびにシーニックへの海外での関心が高まることが期待される。

食の分野では札幌グランドホテルが各ルートの地域食

材を活用し、「北海道をまるごと味わう朝食～シーニック朝食メニュー」や「シーニックバイウェイ北海道×札幌グランドホテルレストランフェア～美味しい寄り道～」といった事業が展開されている。

その他、北海道コカ・コーラボトリングとは自動販売機にシーニックの美しい風景画像を表示してもらうなどのシーニックバイウェイ北海道のPRを実施しているなど、様々な形で民間との連携が進められている。



函館・大沼・噴火湾ルート
「シーニックdeナイト」
大沼国定公園



東オホーツクシーニック
バイウェイ
雄大な流氷景観などを
楽しむことができる雪山
展望台

活動内容の理解と 人材育成が今後の鍵となる

事務局の3名に個人的に感じているシーニックバイウェイ北海道の現状の問題点と今後の方向性について語っていただいた。

「知名度や認知度がまだまだ低いとの声を聞くことがあります。我々はこれからも地域の活動を知っていただく努力を続けなければいけません。活動内容を広く知っていただくきっかけとしては民間企業との共同企画も有効だと思います。結果的にその地域に訪れる観光客が増え地元が活性化することが大切なので、将来を見据えて長い目で地域の皆さんをお手伝いしていきたいです」(畑山氏)

「地域の皆さんが口を揃えておっしゃるのが、せっかく盛り上がり上がって来たこの活動を子供たちや次の世代につなげたいということです。どうしたら現在の活動を継続、継承していけるのか、この点が課題だと思います」(伊藤氏)

そして最後は2012年4月に現在の部署に配置されたばかりの大西氏だ。

「担当になってから釧路と旭川にお伺いしましたが、とにかく地元の方々の想いの熱さには驚かされました。地域の方々の意見を直接伺うことができる仕組みがあるという点は大切にしたいと思いました。私たちが今後に向かって何ができるのか、しっかり考えたいと思います」